北海道支部第７回研究大会報告

【実績】
日時：　2022 年 11 月 5 日（土）14:00-17:30
会場：　岩見沢市自治体ネットワークセンターマルチメディアホール／ZOOM
テーマ：地域 DX による持続可能な地域づくり・まちづくり
構成：　来賓挨拶：飯川 正裕 氏（岩見沢市 副市長）
＜第１部基調講演＞
基調講演Ⅰ：「岩見沢市における地域 DX の取り組み」
黄瀬 信之 氏（岩見沢市 情報政策部長）
基調講演Ⅱ：「インクルーシブな未来社会の実現を目指した岩見沢市での共創モデルについて」
田村 信吾 氏（シスコシステムズ合同会社 公共事業 事業推進本部 本部長）
＜研究発表＞
1．中国広西チワン族自治区における「農家楽」観光の均一化問題に関する考察
―風景イメージスケッチ手法を用いて―
卓 一豪・上田 裕文
＜第２部パネルディスカッション＞
黄瀬 信之 氏、田村 信吾 氏
堂下 剛史 氏（株式会社はまなすインフォメーション 取締役）
（コーディネーター：石黒　侑介／日本地域政策学会　北海道支部　支部長）
参加者：58 名（うちオンライン参加 30 名、事務局含む）
後援：　岩見沢市、総務省北海道総合通信局、北海道

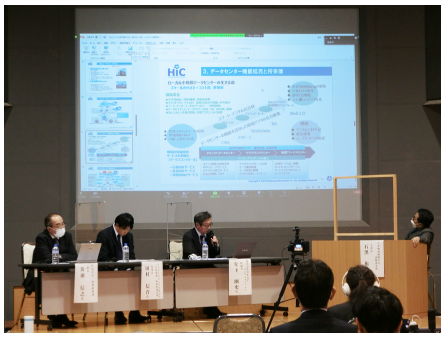
【概要】
! 国は地方創生の実質的な後継政策として「デジタル田園都市」国家構想を掲げており、その全国的な先進事例として知られる岩見沢市において地域 DX をテーマに研究大会を行った。
! 従来、支部の事務局を置く札幌市内で研究大会を開催してきたが、「地域政策」を掲げる学会としてコロナ禍で種々の課題に取り組む地域に実質的に貢献することも責務ではないかとの発議を受け、初めての札幌市外での開催となった。
! 第１部では、岩見沢市の情報政策部長を務める黄瀬信之氏より同市における地域 DX の実情について講演いただいた。同市では 1993 年より DX による「市民生活の質の向上」と「地域経済の活性化」を掲げ自営の光ファイバ網整備に取り組んでおり、教育、医療、農業等において特に目覚ましい成果をあげているとのことであった。政策としての先見性、先進性に加え、実質的な産官学連携、長期的な政策目標からのバックキャスティング思考、DX を進めるための政策課題の共有プロセスにおける市民の巻き込み等の多角的な取り組みが同市の地域 DX の根幹にあることが明らかとなった。
! また、２つ目の基調講演として同市の DX に事業者として参画しているシスコシステムズ合同会社の田村信吾氏より同社が国内外で進める取り組みの紹介と地域づくりに

おける DX の意義について講演いただいた。具体的な事業内容や成果に加え、地域 DX において地域課題の特定を行うフェーズから連携することの重要性、人材育成事業における協業の可能性など同社と地方公共団体の連携の意義が多面的に紹介された。

! その後、研究発表を行った（当初２件を予定していたが、1 件は急遽辞退となった）。

! パネルディスカッションでは、基調講演の２名に加え、岩見沢市でのデジタル関連事業を担う株式会社はまなすインフォメーションの堂下剛史氏をパネラーに迎え、本学会の北海道支部長である石黒のコーディネートによる議論を行った。取り組みを実質化させる経営判断とイニシアチブ、トライ・アンド・エラーを許容しつつ先進的な取り組みを実行する組織風土、さらには人材育成と確保など地域 DX を推進するための要点が指摘・共有された。

【総括】

日本地域政策学会として時宜性の高いテーマでの研究大会を地方開催で実現できたことで、学術研究の社会還元はもとより、学会のプレゼンスの拡大にも一定の貢献があったものと考えている。また、研究大会での議論を通じて、DX が地域総体、地域づくりの多面的な領域における課題として位置づけることが可能である点、産官学連携や市民参加がその推進の中核である点を確認できたことも、本研究大会の成果の 1 つである。

（文責：石黒侑介）